

津ライスニュース

平成 27 年産水稻 作柄報告(速報)版 (通算第 100 号)

平成27年10月27日

津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5121

平成 27 年産水稻の作柄

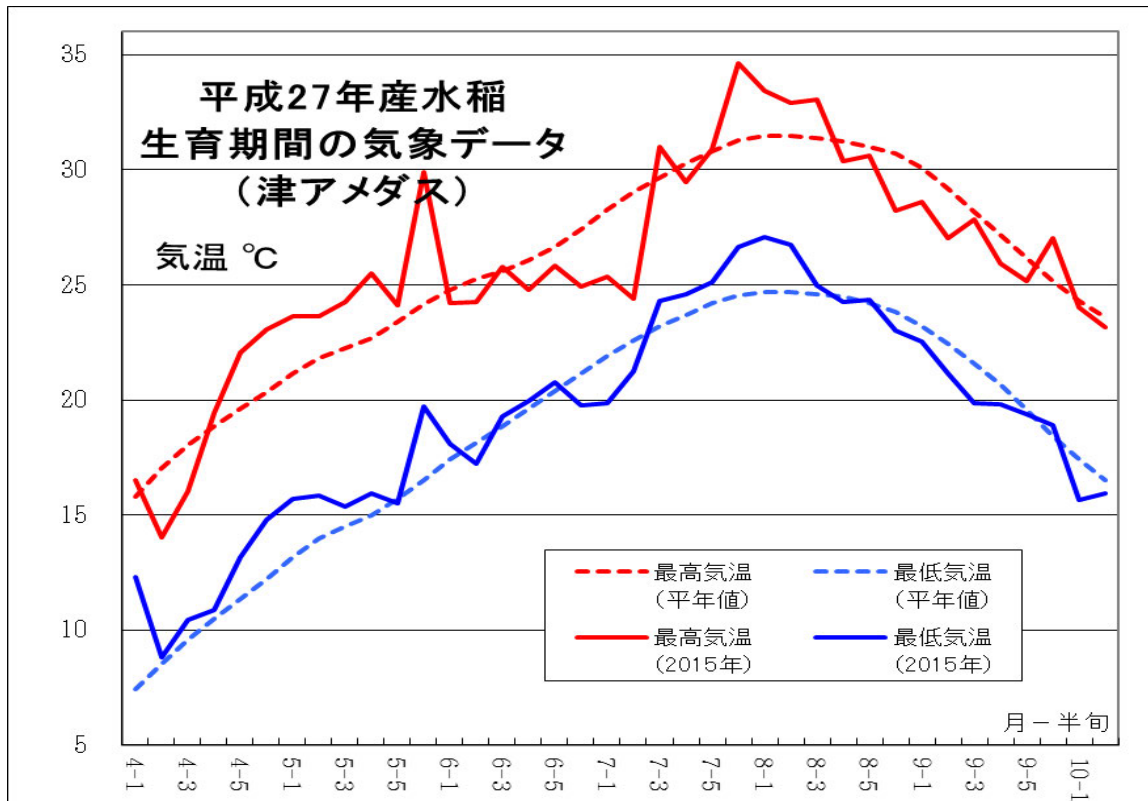
作況指数 98 (三重県及び中勢) の「やや不良」、登熟やや不良。

気象経過

<気温>

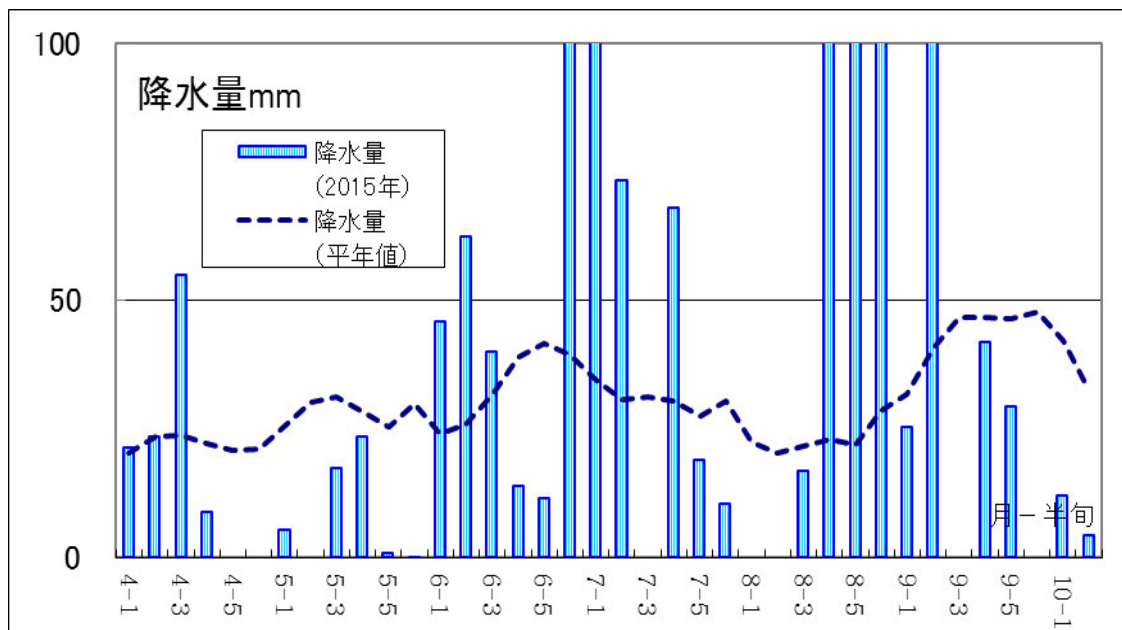
4月中旬以降、気温は高めに経過し、特に5月末頃の気温が高くなりました。

6月に入り最高気温を中心に低温傾向となり、7月中旬頃から続いた高温傾向は8月中旬まで、その後は平年よりやや低い気温が続きました。



<降水量>

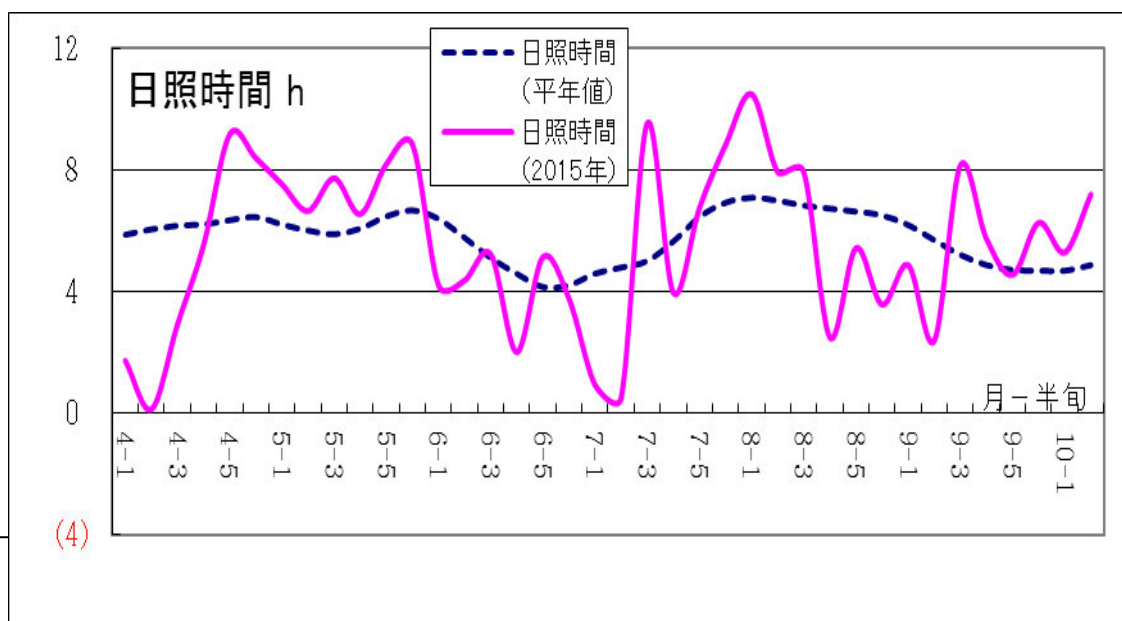
4月中旬に一時雨が多かったもののその後降水量は少なく、6月に入って雨が降るようになりました。6月末から7月は停滞する前線の影響で降雨量がかなり多くなりました。8月上旬が一時的に寡雨、その後は台風等の影響もあり、降雨が多くなりました。



<日照時間>

4月中旬以降、晴れた日が多く、6月入ってからは一転して曇天傾向が続いています。7月下旬からは晴れた日が多くなりました。

8月中旬から9月上旬は雨も多く、日照不足気味となりました(8/15~9/15の日照時間は平年の76%)。



生育経過

< 早期栽培の概要 >

本年は3月以降、雨の日が多かったことから、用水は確保されていて、代かき作業等は順調でしたが、4月上旬の日照不足により、苗丈の長い苗が多く見受けられました。

津管内の田植え作業は、植え始めがやや遅い傾向が見られましたが、概ね4月下旬から5月上旬にかけて、早植え栽培の田植作業が順調に行われました。

本田での生育状況は、例年見られるような低温・強風による植え痛みがほとんど無く、初期生育も概ね順調でした。ただし、日照時間が多く雨が少ない天候なので、水の出入りが少ないほ場では、藻類の発生がやや多く見られました。

本田での初期生育は順調で、前年同時期と比較すると葉齢の進展はやや早く、草丈・茎数もやや多い状況となっていました。

水不足の影響から、中干し作業に躊躇するようなほ場や地域も見られていましたが、6月8日頃の梅雨入り以降の雨により、中干しも随時開始されました。

6月上旬から7月中旬頃までの日照不足、多雨、最高気温が平年を大きく割り込んだことなどにより、稲体の充実度は劣る結果となったと思われます。

出穂時期は平年より早い傾向でした。

7月16、17日の台風11号の襲来により、稲葉身の褐変や出穂の早い稲で穂擦れ等が観察されたこと、また、8月中旬以降の登熟後半時期に低温傾向、多雨、日照不足により、倒伏の多発や籾粒充実不足により減収になったものと思われます。

収穫時期もほ場のぬかるみで作業に支障をきたす場面が多く見受けられました。

早植え栽培(4月下旬～5月上旬移植)の水稻は、4月～7月は比較的温暖に推移したことから初期生育は順調で例年より1週間程度早く出穂期を迎えました。8月上旬に接近した台風の影響およびその前後の降雨による倒伏被害が全域で見られました。山間地域では獣害被害も散見されました。また、8月～9月上旬にかけては記録的な日照不足で登熟が遅れ、品質が低下しました。収穫期には降雨が続き、収穫作業は平年よりやや遅くなりました。

< 普通期栽培の概要 >

普通期栽培の水稻では6月中旬以降の少雨の影響が心配されましたが、生育は順調で出穂期は平年並みとなりました。8月上旬の台風による倒伏被害は少なかったようですが、穂ずれによる褐変籾や不稔籾の発生が散見されました。また、早期栽培と同様に8月～9月上旬にかけての記録的な日照不足の影響による登熟不良が散見され、品質は低下し、大幅な減収となったほ場も多くありました。

<生育基準田等の調査結果>

コシヒカリの生育を前年と比較すると、稈長はやや長く、穂長はやや短くなりましたが、穂数は多くなりました。一方、三重23号は稈長は短く、穂長は長くなりましたが穂数はやや少なくなりました。また、出穂期はコシヒカリは前年より1週間程度早くなりました。

○水稲(コシヒカリ)生育基準田の調査結果 (平成27年8月19日現在)

品種名	調査地点	移植日 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期 (月.日)
					(本/m ²)	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4.21	90	19.8	283	23	7/16
	一志町井生	4.25	85	18.2	425	22	7/20

【参考】前年同時期の調査結果 (平成26年8月14日現在)

コシヒカリ	向井	4.26	89	20.6	316	19	7/20
	一志町井生	4.29	81	18.8	317	15	7/19

○「三重23号」実証ほの調査結果 (平成27年8月17日現在)

品種名	調査地点	移植日 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期 (月.日)
					(本/m ²)	(本/株)	
三重23号	向井	4.20	79	19.3	408	26	7/10

【参考】前年同時期の調査結果 (平成26年8月14日現在)

三重23号	向井	5.10	81	19.9	365	19	7/16
-------	----	------	----	------	-----	----	------

病害虫

<いもち病・紋枯病>

いもち病については、6月下旬から7月上旬にかけて好適感染日があり、防除の徹底等呼びかけたところですが、穂いもちの発生に至るまでの被害はほとんどありませんでした。箱施用剤使用や、適期防除など引き続き啓発する必要があります。

紋枯病の病原菌は、ほ場内および近隣のイネ科・カヤツリグサ科雑草で越冬するため、冬季の畦畔雑草防除が必要です。また、紋枯病が発生したほ場では翌年の水稲作でも発生が多くなる傾向があるため、翌年の水稲作では適切な防除も重要となります。

<斑点米カメムシ類>

本年は、6月から7月上旬が最高気温を中心に比較的低温で経過したため、カメムシの発生時期がやや後半にずれたような傾向でした。水稲の生育途中、あまりほ場でカメムシは見られないような感じがありましたが、収穫近くなってきたほ場では、カメムシの飛来が多く見られるようになり、斑点米の被害もかなり見受けられました。

カメムシ被害対策として、ほ場周囲の荒廃地対策や草刈り、農薬の一斉防除など防除の徹底化が必要です。

収量

コシヒカリは、昨年と比べ大きく減収でしたが、千粒重はやや大きい傾向です。
また、三重23号については、収量は昨年と比べ減少しましたが、屑玄米重は非常に少なくなりました。

平成27年産生育基準田の調査結果を平成26年産の結果と比較したものです。

品種	調査地点		もみわら比	精玄米重 (kg/10a)	屑玄米重 1.85mm以下 (kg/10a)	玄米千粒重 (g)
コシヒカリ	一志町 井生	H27産	1.01	389	30.3	23.4
		H26産	1.05	515	21.1	22.9
		H27/H26	-	0.76	1.44	1.02
三重23号	向井	H27産	0.83	454	5.2	23.9
		H26産	0.94	522	14.5	25.0
		H27/H26	-	0.87	0.36	0.96